



## Visuality Systems、100% Java の SMB クライアントをリリース 最新の SMB バージョンによる、サーバー上リソースへのアクセスを提供

イスラエル、ヨクネアム — 2017 年 10 月 23 日

Visuality Systems は、Microsoft の最新 SMB ファイル共有サービスとの相互接続性を、Java 開発者にも提供すべく、Java 言語版 SMB 実装「jNQ™」を開発してきた。100% Java で開発されたクライアント・ソフトウェア・ライブラリー「jNQ™」は、付属の API を使ってバージョン 1.4 以上のどの Java 環境でも動作が可能。Java SMB 業界ではこの 20 年近く、Chris Hertel 氏が開発した SMBv1 対応のオープンソース・ソフトウェア「JCIFS」が、業界基準として多くの企業や団体に使われてきたが、今回リリースされた最新の「jNQ™」は、暗号化機能を有する SMBv3.1.1 に対応しているため、安全なファイル共有が実現できる。

イスラエルに拠点を置く、開発元の Visuality Systems は、組込み及びストレージ市場において、SMB による相互接続ソリューションを、Microsoft のエコシステムに提供することに注力してきた。同社が提案する、C 及び Java 開発用の SMB サーバー・クライアント実装は、Microsoft の最新 SMB バージョン、SMBv3.1.1 に対応しており、ほとんどの非 Windows 系 OS 上で使用可能だ。

Visuality Systems の Marketing Manager、Tal Widerman 氏は、「jNQ™は、当社製品 NQE™、NQ™Storage、NQ™ for iOS に代表される SMB ラインナップの新製品で、Microsoft の最新 SMB 仕様とのシームレスなインテグレーションを可能にする。今後、Java 組込み製品と、Windows 環境マシンの架け橋となるだろう。」と説明する

この新しい Java ソリューション開発のドライブとなったのは、WannaCry や Petya のサイバー攻撃によって認識された、よりセキュアな SMB 実装への開発者たちからの要求だ。「jNQ™」は、SMB 署名、SMB 暗号、Active Directory 認証、Kerberos 認証、Pre-Logon Integrity（事前認証の整合性）といった手段によって、悪意のある攻撃を防止する。

「世界中のコンピューター・ネットワークやデバイスのセキュリティを強化するには、SMB のバージョンを、SMBv1 から SMBv3.x へ移行することが必須となる。」と話すのは、Microsoft 社の Microsoft Windows Server High Availability and Storage group にて Principal Program Manager を務める Ned Pyle 氏

だ。「Microsoft は Visuality Systems による非 Windows 系コミュニティのサポートを大変嬉しく思う。同コミュニティにより長年待ち望まれてきた SMBv3.x ソリューション、「jNQ™」製品のリリースを歓迎する。」と語っている。

### **Visuality Systems について**

Visuality Systems, Ltd は、多数 OS に対応した SMB ソリューションを提供する、SMB 実装のリーダー。1998 年の設立以来、SMB の開発に完全特化している。

#### **【問い合わせ先】**

アイティアアクセス株式会社（国内代理店）

〒222-0033

横浜市港北区新横浜 3-17-6

045-474-9095

info@itaccess.co.jp